

# かたりべ57

豊島区立郷土資料館だより



手回し蓄音機で童謡鑑賞会  
資料館では、収蔵資料展「こどもの本ー児童文化の担い手たちー」にあわせて、手回し蓄音機（小林義雄氏寄贈、コロムビア社製）とSPレコードを使った、童謡鑑賞会と展示説明会を行っています。

2月6日には、区内の親子読書会のお母さんと子供たちを中心に、20数名が参加しました。子供たちは60〜80年前の『赤い鳥』や『金の星』を見て、タイトルが逆であることに驚き、興味を持ったようです。童謡鑑賞会では、豊島区ゆかりの野口雨情作詞「七つの子」「青い目の人形」や落谷虹児作詞「花嫁人形」、草川信作曲「夕焼け小焼け」などを、鑑賞しました。実際にゼンマイを巻いて蓄音機でレコードを聞くのは子供たちにとって初めての体験で、とても刺激的だったようです。【横山】

展示説明会&童謡鑑賞会

3月4日・5日・26日

午後2時〜3時 当日展示室に集合

# こどもの本

## 「児童文化の担い手たち」

大正デモクラシーと呼ばれる時代、童

話作家・文学者・芸術家などによる、こ

どものための文化運動が豊島区に誕生し

ました。今回の展示では、一九九一年度

に開催した特別展「こどもの再発見―豊

島の児童文化運動と新学校」の成果をも

とに、児童文化運動を担った豊島区ゆか

りの人々（童話・童謡作家、童画家）の

活動を、当館所蔵の児童雑誌・絵本・作

品を中心に紹介しています。

1、赤い鳥のはばたき

一九一八年に鈴木三重吉が目白で創刊

した『赤い鳥』を中心に、三重吉の童話

集『湖水の女』『家なき児』や、表紙絵

を担当した清水義雄・深沢省三などの童

画家たちを紹介しています。

2、こどもたちは芸術家  
ここでは、『赤い鳥』・『金の星』・  
『子供之友』などの児童雑誌に掲載され

た、当時の豊島区の小学生たちの綴方（

作文）・詩・絵を紹介しています。

山本鼎の児童自由画運動によって、堅

苦しい模写から開放され、自由でのびの

びとした子供たちの絵が印象的です。



3、児童文化の担い手たち

ここでは、豊島区に在住した児童文化

関係者45名をとりあげ、在任期間と住所

を表と地図で紹介しています。童話研究

者の蘆谷蘆村、童話作家の小川未明と坪

田譲治、抒情画家の竹久夢二の作品のは

な、童謡の譜面・レコード、童謡かるた

などの「童謡コーナー」が目玉です。

4、童画の父・武井武雄

一九一八年から一九四五年に空襲にあ

うまで池袋のアトリエで活動が続けてい

た童画家・武井武雄を紹介しています。

『子供之友』や『コドモノクニ』など

に描かれた独創的でモダンな童画のほか

に、郷土玩具の収集家・研究者として、

また一三八冊の刊本作品をうみだした造

本美術家としての活動もあわせて紹介し

ています。

今回の展示で紹介した児童雑誌は、昭

和に入って戦時色が濃くなるとともに、

その芸術性が時勢に合わなくなり、『赤

い鳥』も一九三六年に終刊となります。

この展示会がこどもの文化を見つめ直

すきっかけとなれば幸いです。「横山」

第3回収蔵資料展 「まちを歩くーおとなのための地域史入門ー」を終えて

一九九九年一〇月二十七日から二〇〇〇年一月一日（のべ五七日間）に行なわれ、入館者の「身近なまちの歴史」に寄せる関心のほどを紹介いたします。期間中の全入館者数は二三八八人で、このうち、九一人の方からアンケートをいただきました。

①この展示会は何で知りましたか。

最多数は「広報としま」ですが、それに「勤労福祉会館内（当館はこの七階にあります）」の会議室を利用の折に」というものが続きます。その他、「学校の先生に聞いた」とか「各タウン誌からの情報」というものもありました。

②何度目の来館ですか。

「はじめて」という方が四一人いました。これは、アンケート記入者の約四五％に当たります。最多は、何と一七回目という方でした。当館では一九八四年に第一回の展示会を開催していますが、そ

れ以来、毎回のようには御来館をいただいているようです。・・・感激です！

③こどもたちに伝えたい地域の歴史や自分の思い出はありますか。

○昔話 ○自然地形がどんなふうに変わってきたか ○戦争に関したこと ○東京が歩んできた道 ○祖父から聞いた根津山のこと ○年々変わってゆく町並みの変化や学校の変化、その他なつかしい昔の様子 ○今はなくなった町名とその由来 ○交通機関の発達について他記入者の年齢によって関心事に傾向がみられました。中には「多くあって簡単には答えられない」という回答もあり、ことの多様さと奥深さを感じました。

④今回の展示の感想・今後の希望はありますか。

○これからはグローバル化の流れとともに自分たちの地域をみつめ直してことうとする運動が多くなってくると思いますが、この様な展示が私の区にもあればな

と感じました（男性・一九歳） ○もっ

と詳しい資料がほしい。有料でもいい（男性・六八歳） ○戦前と戦後、昭和二

〇年を境にして昭和三〇年以後、急速に町の様子が変わり、展示された写真・地図を拝見して今更ながら驚いています。

過去のことは記憶から遠ざかることを改めて感じました（男性・七九歳） ○現

代との比較がよい。説明をもう少し詳しく。見どころなど注意をひくように（男性・六五歳） ○細部に到るまで綿密に

説明してある。感銘を受けた。（男性・七四歳） ○量・質とも適当で理解しやすかった。説明分がとても良い。（男性

・五六歳） ○コストはかかってませんがゆっくりと見学させていただきました。

楽しかったです（男性・三四歳） ○江戸時代より前の豊島区のこととはなかなか

わからないようですが、調べる価値があるよな気がします（女性・四〇歳） 他

今回の展示で、地域史への門を通過していただけましたでしょうか。次は、自分の歴史を記録することについて考える展示を企画したいと思っています。〔福岡〕

# ◆◆郷土資料館なんでもQ&A◆◆

戦後まもなく起きた「帝銀事件」  
Q というのは、豊島区と関係がある  
と聞きましたか？

A 「帝銀事件」とは、一九四八（昭  
和二三）年一月二六日、豊島区の  
西武線椎名町駅近くの帝國銀行椎名町支  
店を舞台に起きた、大量殺人・強盗事件  
です（帝國銀行とは戦時中に三井銀行と  
第一銀行が統合されてできた銀行で、そ  
の後、再分離され、それぞれ他の銀行と  
合併しています）。

その日、午後三時ごろ、「東京都防疫  
班」の腕章をまいた一人の男が椎名町支  
店（銀行といっても普通の民家風の建物  
でした）を訪れ「近くで赤痢が発生し、  
その患者の一人がここを訪れたことが分  
かったので、GHQの消毒班がくるが、  
その前に予防薬を飲んでもらいたい」と  
いうようなことを述べ、持参した液体を  
まず自分で飲んだ後、行員やその家族一

六人に飲ませました。当時は戦争が終わ  
ってまもなくで衛生状態や食糧事情は極  
度に悪く、各地で伝染病が流行していま  
した。また、戦争に敗れた日本ではGH  
Q（占領軍総司令部）の権威と権力は絶  
対的なものでした。多数の人が比較的簡  
単に薬を飲んだことには、このような背  
景があったのです。

薬を飲んだ人たちはまもなく昏倒し苦  
しみ出し、一六人のうち一二人が死亡し  
ました。その間に男は現金や小切手を盗  
んで逃亡しました。

捜査は難航し、夏すぎになって画家の  
平沢貞通が逮捕され、やがて起訴されま  
す。平沢は取り調べ中にいったん自供を  
しましたが、その後否認、裁判を通じて  
一貫して無罪を主張しました。しかし、  
一九五五年五月最高裁で死刑判決が確定  
し、その後、再審請求を何回も提起しま  
したが、認められず、一九八七年五月、  
獄中で亡くなりました。再審請求は、現

在も遺族によって続けられています。

この裁判では物証がほとんどなく、毒  
物（青酸カリとされています）が、これに  
も疑問が出されています（の入手方法や  
その取扱い能力など、平沢では不可能で  
はないかとの疑問は未だに強く残ってい  
ます。また、初期の捜査で重視された  
という旧日本軍の毒ガス・細菌戦研究の関  
係者の線を指摘する主張もあります。

いろいろな意味で戦後直後、占領下の  
怪事件として話題を呼んだ大量殺人事件  
も次第に忘れ去られようとしています。  
犠牲者の無念の思いとともに、裁判問題  
のテーマともなった帝銀事件は、戦後史  
のなかで、特異な位置をしめています。

「青木」

かたりべ  
(第二版)

No. 57

2000年2月29日発行

印刷／発行  
豊島区立郷土資料館

豊島区西池袋2-37-4

☎03-3980-2351